

遺骨収集に向けさらに前進するために！ 長生炭鉱水没事故 80 周年 犠牲者追悼集会にご参加を！

来る2月12日（土）に追悼集会を開催します。（詳細は別添チラシを参照ください。）

2022年は1942年2月3日に起きた長生炭鉱水没事故から80周年という節目の年であり、また、追悼ひろばを建設してから10年目を迎える年となります。

遺骨収集に向けての決意を新たに、大きな一歩となるような集会にしたいと思っています。感染症予防と会場に来られない方のためにオンラインでも視聴できるよう準備をしています。どうぞご参加ください。

また、若者グループ（ムンノリクラブ）と韓国富川プチョン青少年いきいき交流計画 BIYP が「刻む会」と共催で、来る追悼集会へ向けて、①「とどけ若者の声キャンペーン」と②「犠牲者 183 本のろうそくキャンペーン」を企画しました。

追悼集会の第1部で BIYP の若者が①「とどけ若者の声キャンペーン」で寄せられたメッセージを読み上げます。（当日資料にも掲載します。）

第1部終了後、海岸で②「犠牲者 183 本のろうそくキャンペーン」を BIYP が担当します。

こちらもぜひご参加ください！（なお、ピーヤの見える海岸付近は駐車禁止です。地元の方々にご迷惑にならないよう、ご注意ください！）



BUCHÉON (プチョン) IKKI-IKKI-ASIA
YOUTH EXCHANGE PROGRAM

韓国富川プチョン青少年 いきいき計画 BIYP のご紹介

韓国富川市（プチョン市）と山口県の青少年の交流会をこれまでホームステイや集団活動を通じた交流を8回開催、「刻む会」も長生炭鉱のフィールドワークなどを通じて活動をバックアップしてきました。6月と9月（『たより No.82』参照）に引き続き、12月11日（土）、韓国富川市（プチョン市）と山口県の青少年の3回目のオンライン交流会を開催しました。日本の高校生を中心に料理の作り方を説明し、小中高大学生が画面越しではありましたが、韓国の子もたちとの交流を楽しみました。



刻む会 たより

NO. 83

2022年1月7日

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

共同代表

井上洋子・木村道江

事務局 宇部市常盤町一―一九（宇部緑橋教会内） TEL 0836（21）8003
カンパ振込先 ゆうちょ銀行 □座番号 01590・7・32405

年会費 《正会員》個人3,000円 団体5,000円
《賛助会員》個人1,000円 団体2,000円

ホームページ <https://www.chouseitankou.com>
メール chouseitankou@gmail.com



海の底に眠る坑夫たち
長生炭鉱の跡を訪れる

リア・スミス

Leah Smith

ワクチンを2回受け終え、久しぶりに県外に行きました。7月の結婚記念日を兼ねての久しぶりの県外旅行として山口県の下関グランドホテルでフランス料理を食べに行く計画を立てました。せっかくな山口県を訪れるので去年の筑豊炭田見学につづいて、宇部炭鉱に行ってみようと思いましたが、宇部炭鉱についてオンラインで調べたとき、「長生炭鉱水没事故」の記事を見つけました。

宇部の長生炭鉱は海底にありました。1942年2月3日に水没事故が起こり、183名の坑夫は脱出できず、海の下で命を落としました。死亡者の7割、136名は朝鮮人労働者であり、その遺体は今も海の底で眠っています。「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」(以下「刻む会」)のウェブページでその記事を読んだのち、問い合わせしてみると、すぐに返事を返していただき、会の代表の方に追悼碑へ案内してもらうことになりました。

当日の朝広島から宇部の床波に車を走らせた。現地で、「刻む会」の井上さんと松元さんに会って、焼き付く日の下で事故の犠牲者の名前が刻んである追悼碑(2013年建立)を見せていただき、詳しい説明を聞きました。暑さに弱い私にいろいろと気を使っていたいただき、ミニ扇風機や日傘を用意してくださった。

追悼碑には、一人一人の犠牲者の名前が刻まれている。そして毎年、事故があった2月3日に追

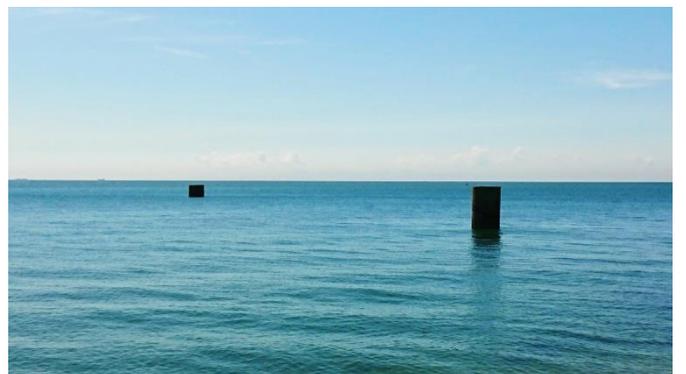
悼碑の前で追悼の会が開かれている事を知りました。



1 長生炭鉱追憶ひろばの慰霊碑

次に案内していただいたのは、炭鉱の跡地にその悲しい歴史を語るがごとく唯一残った証である海の中に浮かぶ二本のピーヤだった。もともとそれは排気、排水のためのものであったそうだけれども今は海の底の犠牲者の墓標にも思える。80年もの月日が経ち、ピーヤは年々に朽ちていく。消えてしまったらその歴史、その出来事、その中で命を落とした方々のことも忘れられていくではないか。

長生炭鉱の事故は太平洋戦争の間の最大の死者を出した事故であった。しかし、当時の地元朝日新聞には「入坑者の大半は救いだされた」と記された。なぜ新聞は事実とはかけ離れたことを書いたのだろうか。



2 長生炭鉱の2本のピーヤ

朝鮮炭鉱とよばれる

なぜ長生炭鉱では多くの朝鮮人が働いていたのだろうか。1937年の満州事変の後、中国の大陸では戦争が広がったため、多くの日本人が徴兵され、アジア大陸に渡った。日本は戦争のために石炭の生産を上げる必要があったが、労働力不足だった為、日本政府は強制的に朝鮮人を連行し、過酷な環境で働かせたのだ。『朝鮮人強制連行調査の記録 中国編』 p.64)

当時、長生炭鉱は朝鮮炭鉱と呼ばれていたほど朝鮮からつれて来られた労働者が多かったそう。 (同上 p.69) 実は、別の炭鉱で働く日本人は長生炭鉱がどれだけ危険かを知っていたため、その炭鉱を避けていたという証言さえのこっている。

それまでも海水が炭鉱に流れ込み、作業を一時停止することもありました。水没事故の2か月前の1941年11月30日に炭鉱の一部に多量な水が流れ込んだ。経営者は危険だと知っていても、戦争のために生産を上げようと思い、十分に考慮せずに石炭の採掘を続けました。『アボジは海の底』(1) p.28)

言葉がほとんど分らない外国人労働者にその情報は伝わらない。たとえ分かっているとしても、強制連行されて来た朝鮮人は働く場所を選ぶことができなかった。

事故の朝炭鉱からやっとの思いで逃げて来た一人、イ・ジョンチョンは初めて炭鉱に下ったときの恐怖を語った。監督から「絶対安全じゃ」といわれたが天井から海水がもれて、すぐ頭の上に通る漁船のエンジンがポンポンポンと聞こえて、非常に不安でしたと証言した。『アボジは海の底』(2) p.12)

1942年2月3日の朝、突然海水が流入して、炭鉱の奥にいる者は水に足が取られながら、必死で坑口へと向かったが「ササ部屋まで来てそこから先、坑道は海水で天井まで塞がれてしまっただけで進むことができなくなっていた。」(『朝鮮人強制連行調査の記録』 p.71) 服を脱いで泳いで逃げた助かった若者が一人いた。たったの十数名は坑内から出られて助かったが、残りの183名は逃げ道がなく、おぼれ死んだ。

感動的な手紙

海辺から長生炭鉱のピーヤを見てから、暑さを逃れて、室内でゆっくりの説明を聞いた。「長生炭

鉱の“水非常”を歴史に刻む会」が1991年に結成されたとき1941年当時の社員名簿が発見されたそうで、その名簿には朝鮮からつれて来られた方々の元の住所が載っていた。「刻む会」は、無事遺族に届く可能性が薄いとわかりつつも、118通の手紙を50年前の住所に宛てて出した。私は「刻む会」の方々のその思いつき、その勇気を素晴らしいと思い、感銘をうけた。結果、17人からも返事が届いたことは奇跡とでもいえるでしょう。

その中から一人の女性からの手紙の日本語訳を読ませてもらった。父親が日本に行ったときまだお母さんのお腹にいた。それ以来お父さんの行方は分からないままだったそうだ。「長生炭鉱で1942年2月3日に水没事故で亡くなったという消息をこれで初めて知りました。遠い異国の土地の海の底にいらっしやるお父様の魂でも逢うことができれば逢いたいです。父親が死亡した日にちだけでも分かるようになり、感謝いたします。」

毎年、長生炭鉱の追悼碑前やピーヤが見える海岸へ多くの遺族が韓国から訪れ、親や祖父の魂の安息を祈る。未だに、遺体は海の底に眠りつづける。

「歴史に刻む会」のしおりにはいくつかの課題が記されている。遺体を取り戻すこと、ピーヤの保存やまだ連絡が取れてない遺族の所在を調べることなどまだ多くの課題が残っているそうだ。



3 追悼集会の様子 2015

「ダーク・ツーリズム」とは？

この間、北海道の芦別炭鉱をネットで調べたとき、はじめて「ダークツーリズム」ということばに出会った。最初、私はそれをマイナスイメージにとらえたが、説明を見るとそれはむしろよいことだと分かった。

災害跡地、戦争跡地、弾圧や虐殺が起こった人類の悲しみの場所を観光の対象にすることをダークツーリズムと言い、その目的は自分の意識を高めることや次の世代にその悲惨を伝えていくことだそうだ。

長生炭鉱の悲劇を知っている人は少ないと思います。私自身も知らない一人だった。過去の過ちを心に刻むことは必要なことだと思う。だが、

行政や政府は自分にとって都合な過去を打ち消したいようだ。

イギリスのチャーチル (Churchill) 元首相は昔の有名な言葉が “Those that fail to learn from history are doomed to repeat it.” 「歴史の教訓を学ばないひとびとはそのあやまちを繰り返す運命」 私もそう信じている。

ぜひ、長生炭鉱の跡を見て学習して来てください。歴史の事実、その証拠をしっかりと見ましよう。近年、歴史の事実を打ち消そうという動きが気になっている。子どもに教える歴史を書き換えようとする動きがアメリカにも日本にもはつきりと同える。アメリカでは白人の多い学区では黒人の歴史、奴隷制度、などを学校で教えないでほしいと保護者は主張したようです。都合な事実を消去していいのだろうか。

私が取っている英字新聞の社説に学校の教科書に “従軍慰安婦” という言葉が使われていたことを抗議していました。(『Japan News』 May 2, 2021) 「強制連行があったかのように誤解を招きやすい」と編集者が偏った意見を載せた。(『読売新聞』、2021年5月1日)

一般市民は新聞を信頼して読んでいる。朝鮮人が強制的に働かされたことは事実であるにもかかわらずその新聞の社説を読んだら、深く考えずに、それを信じてしまう読者は少なくないだろう。日本の政府も歴史の事実を否定しようとしています。ドイツがアウシュヴィッツ強制収容所を公開して、過去の罪を認めているように、日本も犯した罪を認めて、悔い改めるべきだと思います。

強制連行が実際に行われていた証拠は私達のまわりにも残っています。ぜひ皆さんも長生炭鉱の跡を訪れて歴史の事実をしっかりと自分の目で見ることをお勧めします。

*ササ部屋は抗内の事務室

2021年10月7日執筆

参考文献

1 『朝鮮人強制連行調査の記録・中国編』朝鮮人強制連行真相調査団 編著 (柏書房)

2 『アボジは海の底―証言・資料集【1】』長生炭鉱の “水非常” を歴史刻にむ会出版 第2刷 2015年3月21日

3 『アボジは海の底―証言・資料集【2】』長生炭鉱の “水非常” を歴史に刻む会出版

※リア・スミスさんは、2021/7/30にフィールドワークに来られました。

その時の訪問記をご自分のブログ記事(英語)に掲載されています。「刻む会」ホームページのブログにご紹介していますのでぜひアクセスしてみてください！



活動日誌 (前回たより以降) 太字は記事掲載

- 10 / 18 (木) 真相究明ネットワーク事務局会議 (Web)
- 10 / 22 (金) 山口県との協議(山口市)
- 10 / 23 (土) 真相究明ネットワーク連続講座① (Web)
- 11 / 3 (水) 平和フェスタ(宇部市&Web)
- 11 / 10 (水) 山口朝鮮中級学校補助金カットに対する山口県学事文書課との交渉並びに抗議座り込み行動及び座談会参加(山口市)
- 11 / 11 (木) 第8回運営委員会(宇部市)
- 11 / 14 (日) (日韓青少年交流)BIYP・ムンリクラブ(宇部市)
- 11 / 20 (土) 曹洞宗ひろば訪問(宇部市)
- 11 / 23 (土) 真相究明ネットワーク連続講座② (Web)
- 11 / 25 (木) 第9回臨時運営委員会(宇部市)
- 12 / 5 (日) (日韓青少年交流)BIYP・ムンリクラブ(宇部市)
- 12 / 8 (水) 山口朝鮮中級学校補助金カットに対する山口県学事文書課との交渉並びに抗議座り込み行動及び座談会参加(山口市)
- 12 / 11 (土) 日韓青少年交流 (BIYP) (Web)
- 12 / 23 (木) 第10回運営委員会(宇部市)

全国商工新聞 (2021年10月18日号) に掲載されました!



平和フェスタに参加しました!

去る11月3日(水・休)、昨年同様、zoomを使ったオンラインで平和フェスタが開催されました。「刻む会」からの報告として、映像視聴と木村道江共同代表からの報告がありました。3会場に分かれてのパブリックビューイングもありました。参加者から「重要な問題だと思う」という意見や、「連行された人は何人だったか」などの質問も出され、活発に意見交換がなされました。



「山口朝鮮初中級学校 65周年プロジェクト」報告

山口朝鮮初中級学校 教員一同

山口朝鮮初中級学校 65周年プロジェクト実行委員会

【感謝のご挨拶】

この度は、“不自由なく学べる教育環境を！山口朝鮮初中級学校 65周年プロジェクト”にたくさんのご支援を送っていただき本当にありがとうございました。

初めて挑戦するクラウドファンディングに不安が先立ちますが、朝鮮学校の存在と現状を理解していただき、国内外問わず多くの方々に支援と応援を寄せていただきました。

支援してくださった皆さまに、心より御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

【クラウドファンディングの結果報告】

7月14日より2,300,000円の目標金額を設定し、7月19日に目標金額を達成し、最終的に368人の方々に総額4,667,000円のご支援をいただくことができました。また、本校への心温まる応援メッセージも一緒に寄せていただきました。ほんとうに嬉しく、ありがたく、そして勇気をいただきました。

【収支報告】

皆様からご支援いただいた4,667,000円(うちReadyfor手数料872,729円)は以下のとおり利用させていただきました。

エアコン本体代金：1,800,000円 Readyfor手数料：872,729円 リターンも含む諸費用：200,681円
校舎補修代の一部に充当：1,793,590円 ※補修内容は下記に記しています。 合計：4,667,000円



*本来ならば各種学校である朝鮮学校にも公的な補助によって、エアコンをはじめ校舎の補修工事などの教育環境整備はなされるべきである。2013年から県、下関市、宇部市からの補助金も停止され、公的補助は0である。一方、この間、補助金復活を求める多くの支援者の声がこのプロジェクトの成果につながったと思う。(金静媛)

許鳳兆（ホ・ボンジョ）さんを偲んで
—多くのことを学ばせていただきました—

顧問 内岡 貞雄

「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」追悼集会での通訳をはじめ、「山口県の朝鮮学校の歴史」等をご教示いただいた元宇部朝鮮初中級学校校長の許鳳兆さんが、今年の四月二十四日にお亡くなりになりました。享年八一歳でした。印象に残っていることを少し述べさせていただきます。

二〇〇九年七月、韓国光州（クアンジュ）から中学生30名が「長生炭鉱の歴史・平和学習」を目的に長生炭鉱に来ました。関釜フェリー（星希（ソンジ）号は、台風接近で大揺れになり子どもたちはよく眠れなかったそうです。それでも、ボンジョさんの話を集中して聞いていました。

長生炭鉱での朝鮮人労働者の強制労働の様子、お腹が痛くても、風邪で高熱があっても坑内の採炭作業を強いられたこと。また関門鉄道トンネルの突貫工事の過酷な労働に二百人の朝鮮人労働者が強制労働させられたこと等。どちらの強制労働も、国策によって日本の戦争遂行のために働かされたことを話された。当時朝鮮人労働者は「産業戦士」と呼ばれたが、その実態は日本人による差別と偏見で見下され、人権侵害は日常的だったことを話された。

No.83
長生海岸でピーヤに向かって献花する彼らの表情は、朝鮮人にとって大切な歴史の事実を学んだこともあり、とても生き生きしているように感じられた。

二〇一五年一月、第二九回人権啓発研究集会が山口市スポーツ文化センター・アリーナに四千人を集めて開かれた。その三日目、「海に沈んだ炭鉱―朝鮮人強制連行と長生炭鉱」と題するフィールドワークが行われた。現地訪問前にボンジョさんに在日朝鮮人としての思いを語っていただいた。

「一九四八年は政府による朝鮮学校閉鎖令に反対する教育闘争があった年で、同年三月末に山口民族教育闘争、同年四月に阪神教育闘争があった。朝鮮学校閉鎖のため、私が小四の時やむなく宇部市立藤山小へ転校した。日本語の教科書は全く読めなかったため、朝鮮語のルビをつけて勉強した。中三でクラスストップの成績となったが、県立高校の入試は不合格となった。担任は学力が足りなかったわけではないと言ってくれたが一五歳の私にはシヨックであった。父親の勧めで東京朝鮮高級学校に進学し、朝鮮学校の教員としての道を歩むことになった。朝鮮人として子どもたちの民族教育に関われるのは素晴らしいことだった。」

F W参加者は、在日朝鮮人のお話しを聞いて良かったと感想を述べた。その数カ月後、ボンジョさんは「山口県の朝鮮学校の歴史」という講演を、「刻む会」の皆さんに話してくださいました。

今から5、6年前の冬、韓国カメラマン・大学教員の李在甲（イ・シエカプ）さんと学校公演語りの部の裴東録（ペ・トンノク）さんに同行して、ボンジョさんの「身世打鈴（シンセタリョン）」取材を聞く機会があった。宇部に着いた時、一面

雪景色だったがボンジョさんの自宅前は雪かきがしてあった。

ボンジョさんの歩みは大体知っていたつもりだったが、聞き取りの半ばにボンジョさんが涙声で話されたので驚いた。朝鮮語で詳細は分からなかったが、後でペさんからの話でその訳が分かった。

「一九五〇年代末に宇部朝鮮初級学校が創立した。校舎はなんとか完成したが、学校の経営基盤は脆弱であり、先生たちや保護者たちには希望と不安が渦巻いていた。そんな時、共和国から『教育援助費』が送金されてきた。涙が出るほど嬉しかった。」と言って、しばらく絶句された。

ボンジョさんはあまり笑われない方だったと思う。私たちが長生炭鉱周辺の草刈りをした後、汗流しに宇部市内のカッタの湯に行った時、何度かボンジョさんにお会いした。彼は湯船につかりながら言われた。

「最近腰が悪くて、長生炭鉱は追悼式くらいしか行けないけど頑張ってください。来週は東京にいる孫に会いに行くので楽しみです。」と満面の笑顔だった。

許鳳兆さん、「刻む会」の活動では大変お世話になりました。ご冥福を心からお祈りいたします。



会計報告（2021/10/1～2021/11/30）

【一般会計】

（円）

	科 目	年度予算	期間実績	累計	達成率	備考
	歳入					
1	会費	600,000	41,000	481,000	80.2%	
2	寄付金	860,000	94,000	341,500	39.7%	※
3	物販	15,000	8,000	7,200	48.0%	
	証言・資料集	10,000	0	7,700	77.0%	
	その他	5,000	8,000	(500)	-10.0%	
4	雑収入	4,000	3,740	3,740	93.5%	
5	前期繰越金	150,000	0	150,000	100.0%	
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合 計	1,629,000	146,740	983,440	60.4%	

	歳出					
1	事務費	50,000	5,867	20,016	40.0%	
2	広報費	370,000	70,716	266,013	71.9%	会報誌送料・印刷他
3	会議費	66,000	0	0	0.0%	
4	追悼碑管理費	10,000	782	3,986	39.9%	電気代
5	活動費	900,000	3,000	31,635	3.5%	
	学習会等	100,000	3,000	4,940	4.9%	平和フェスタ賛同
	追悼集会	600,000	0	0	0.0%	
	その他活動	200,000	0	26,695	13.3%	
6	他団体会費等	50,000	0	15,000	30.0%	
7	雑支出	50,000	507	7,316	14.6%	
	手数料	40,000	507	2,553	6.4%	郵便局
	その他	10,000	0	4,763	47.6%	
8	予備費	98,000		0	0.0%	
9	特別会計へ繰出	35,000	0	0	0.0%	
	小 計	1,629,000	80,872	343,966	21.1%	
10	繰越金	0	65,868	639,474		
	合 計	1,629,000	146,740	983,440	60.4%	

※寄付者（敬称略）

石川 丈夫 市川真美恵 内岡 貞雄 呉 世 憲 大黒 春江 杵湊 智子 京田 一美
 倉田 義雄 那須美佐子 馬場 彰子 林 修二 松本 隆 南澤 道人 宮崎 衛
 山本 興治 鍵光 洋子 その他匿名8件

【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	588,289				
繰入金	0		繰越金	588,289	
合 計	588,289		合 計	588,289	

【遺骨収集等特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,720,854		DNA 鑑定	14,850	DNA 鑑定
繰入金	0		繰越金	1,706,004	
合 計	1,720,854		合 計	1,720,854	

以上感謝をもってご報告いたします。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

強制動員 zoom 講座のススメ

第1回「佐渡鉱山と朝鮮人労働者+新史料」は、強制連行の実態が良くわかるお話でした！

「刻む会」の加盟団体である「真相究明ネットワーク」主催で、オンライン講座が開催されています。コロナ禍でなかなか集まりませんが、代わりにオンラインで気軽に参加できます。既に2回開催されており、全国から100名近く参加しています。内容は非常にアカデミックで、勉強になります。大学での講義を聞いているようです。その道のプロの話が、無料で聞けるチャンス！事前申し込みが必要ですので、参加希望の方は、同封のチラシを参照のうえ、ご参加ください。

第2回「産業戦士にされる朝鮮人労働者」は、現代の外国人技能実習生の問題に通じるお話でした！

これから開催予定です！ぜひ！

第3回 2022年1月29日(土) 15~17時半
「三池炭鉱での連合軍捕虜の強制労働ーオーストリア兵の実態」
講師：デビット・パーマーさん(メルボルン大学)

第4回 2022年3月20日(土) 15~17時
「北海道・朱鞠内での強制労働と遺骨発掘・送還」
講師：ドゥロー・アゴさん(広島市立大学国際学部客員研究員)



『刻む会たより No.82』正誤表 (訂正箇所：P10 2段目2段落目)

2021年10月28日発行の『刻む会たより No.82』の編集過程で文章の抜けが発覚しましたので、以下の通り訂正します。執筆者及び関係者の方々にご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。(編集担当：山内弘恵)

その後、16年余り「NPO法人多文化共生と人権文化」を母体としてハンセン病問題、民族問題、先住民族アイヌの歴史と文化、琉球の歴史・文化等について現地の人と親交をしながら活動してきた。2021年5月、私は80を迎えた。今は、周りの人も互いに年を取り、以前と同じような取り組みは叶わない。NPO法人多文化共生と人権文化も役員の高齢化に伴い、今年5月閉幕した。今では、「市民活動養成塾」(行政と協働)を立ち上げて毎月、人権・平和に関連した研修会を細々と続けている。(民族問題・ハンセン病問題・地域誌に見る部落史・沖縄・アイヌ問題)時には招かれて講話に出かけている。9月で3年になる。もう少し現役でいたいと思っている。Uターンし40年の歩みの一端を記す。

正

その後、16年余り「NPO法人多文化共生と人権文化」を母体としてハンセン病問題、民族問題、先住民族アイヌの歴史と文化、琉球の歴史・文化等について現地の人と親交をしながら活動してきた。2021年5月、私は80を迎えた。今は、周りの人も互いに年を取り、依然と同じような取り組みは叶わない。「NPO法人多文化共生と人権養成塾」(行政と協働)を立ち上げて毎月、人権・平和に関連した研修会を細々と続けている。(民族問題・ハンセン病問題・地域誌に見る部落史・沖縄・アイヌ問題)時には招かれて講話に出かけている。9月で3年になる。もう少し現役でいたいと思っている。Uターンし40年の歩みの一端を記す。

誤

《同封物》

- ・追悼集会チラシ
- ・強制動員 zoom 講座チラシ
- ・2022 全国行動月間チラシ
- ・振替用紙



事務局より

会員動静 (2021年12月23日現在)

正会員	131名 (総会比+1名)
賛助会員	267名 (総会比-1名)
寄付者	106名 (総会比+3名)
計	504名 (総会比+3名)

会員・寄付者募集中！知人・友人にぜひ一声お願いします！

今後の予定

- 2022年1月12日(水) 11:40~
山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及び座談会(山口市)
- 2022年1月13日(木) 10:30~13:00
第11回運営委員会(宇部市)
- 2022年1月23日(月) 15:00~
真相究明ネットワーク事務局会議(神戸市&web)
- 2022年1月29日(土) 15:00~17:30
強制動員 zoom 講座③(同封チラシ参照)
- 2022年2月10日(金) 14:30~
追悼集会前日準備(宇部市)
- 2022年2月12日(土) 11:00~16:30
追悼集会(同封チラシ参照)
- 2022年2月24日(木) 10:30~13:00
第12回運営委員会(宇部市)
- 2022年2月17日(木) 13:30~16:30
朝鮮学校支援・全国行動月間企画(同封チラシ参照)